

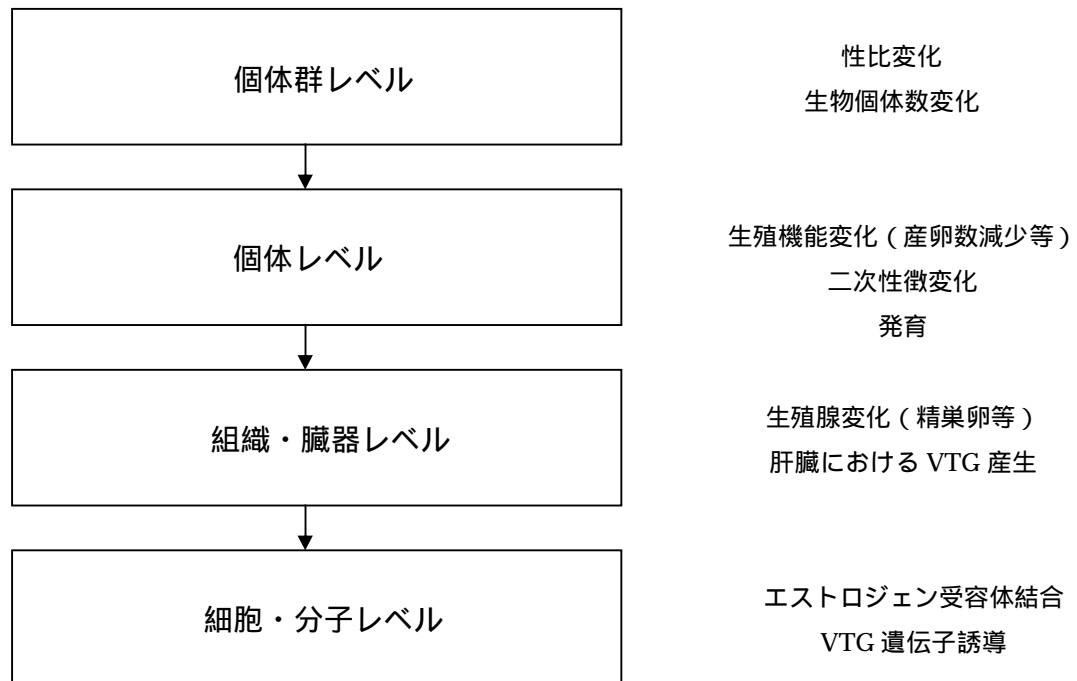
ExTEND2005 基盤的研究について

環境安全課

1. 基本的な考え方

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND2005-」においては、「観察された個体レベルでの事象が、内分泌かく乱を通しての一次的影響なのか、二次的影響なのかを見極めるためには、作用メカニズムについての知識が不可欠である。また、個体レベルでの有害影響と細胞・分子レベルでの変化との関連性も明らかにしていく必要がある。」としている(p20)。

【エストロゲン様作用での例】



(図) 内分泌かく乱作用の様々なレベルでの説明

2. 平成 18 年度基盤的研究課題

平成 17 年度に実施した以下の 7 課題について平成 18 年度基盤的研究課題として採択した。

課題 1 メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究(代表研究者：自然科学研究機構 長濱嘉孝)

課題 2 遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質の影響評価と作用機構の解明(代表研究者：京都大学 木下政人)

課題 3 哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解明と新たな内分泌かく乱メカニズムの検証(代表研究者：残留農薬研究所 青山博昭)

課題 4 胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function と性分化の可塑性(代表研究者：大阪大学 中西 剛)

課題 5 胎仔期、新生仔期の代謝機能と内分泌かく乱作用発現(代表研究者：広島大学 太田 茂)

課題 6 核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構(代表研究者：群馬大学 鯉淵典之)

課題 7 燃焼排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の評価(代表研究者：金沢大学 早川和一)

なお、平成 17 年度に基盤的研究フェージビリティースタディとして実施した以下の 1 課題については、今後は「野生生物の生物学的知見検討会」の枠組みで実施する。

課題 野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析(代表研究者：新潟大学 濱口 哲)

また、平成 17 年度に基盤的研究として実施した以下の 3 課題については、今後は「国際協力関係事業」の枠組みで実施する。

課題 イトヨによる化学物質の内分泌かく乱作用の評価手法の研究(代表研究者：長崎大学 長江真樹)

課題 両生類の甲状腺ホルモンに対するかく乱作用発現のメカニズムに関する研究(代表研究者：広島大学 柏木昭彦)

課題 ミジンコにおける内分泌かく乱作用メカニズムの解析(代表研究者：自然

科学研究機構 渡邊 肇)

3. 今後の方針(案)

採択した7課題について、具体的研究内容を調整の上、研究を実施する。また、今後の新規研究課題等についても検討を行う。

なお、「基盤的研究課題」の本年度成果及び「野生生物の生物学的知見研究課題」の本年度成果については、「合同成果発表会」を本年度末に公開で開催し、評価を行う。

「国際協力関係事業」の枠組みで実施する研究の成果についても、「合同成果発表会」において報告する。